

## 三者連携に基づく周南市学生消防団の創設 —新しい学生消防団設立を契機に—

### Establishment of a Student Fire Brigade Based on Tripartite Collaboration

#### Taking the establishment of a new student fire brigade as an opportunity

中嶋 克成

#### 要旨

本事例報告では、周南市において導入・展開されている学生消防団員制度及び、周南公立大学、徳山工業高等専門学校、周南市の三者連携による制度形成の経緯とその意義を示す。とりわけ、地域防災力の向上および若年層の地域参画という観点から、学生消防団制度が果たす役割について検討する。周南市では、平成 29 年度に導入された「学生消防団活動認証制度」をもとにして、平成 30 年 3 月に学生消防団を創設した。その後に発生した新型コロナウイルス感染症の影響により一時的に団員数が減少し、2025 年 3 月時点では学生消防団員は 1 名となっていた。そこで、周南公立大学、徳山工業高等専門学校、周南市の三者連携に基づき新たな学生消防団を創設することとなった。以降、再び学生の参加が拡大しており、地域防災体制の持続可能性を支える重要な取り組みとなっている。

キーワード：学生消防団、周南公立大学、三者連携、学部専門性、避難所運営

## 周南市学生消防団設立の背景

近年、全国的な消防団員の減少と平均年齢上昇が課題として顕在化する中で、若年層の消防団員入団が求められている（中嶋ら（2021）、中嶋（2021）に詳しい）。平成26年ごろから総務省消防庁でも学生消防団員の活動推進の一環として「学生消防団活動認証制度」の枠組みが示された（消防庁ホームページ）。「学生消防団活動認証制度」は、消防団員として活動した学生に対し、市町村長が「学生消防団活動認証証明書」を交付するものである。この証明書は、就職活動の自己PRなどでの活用を想定している（図1）。

### <認証手続きの流れ>

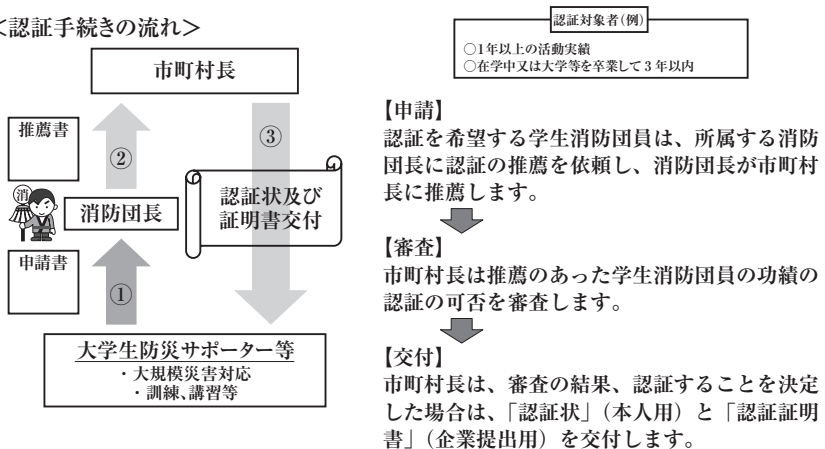


図1 学生消防団活動認証制度（引用：総務省消防庁ホームページ）

周南市でも学生消防団および学生消防団活動認証制度導入の検討が進められ、平成29年度に「学生消防団活動認証制度」が制定された（表1）。この「学生消防団活動認証制度」をもとにして、平成30年3月に旧学生消防団が創設された。創設当時は徳山大学（現：周南公立大学）の学生8名、徳山高専の学生3名の計11名が学生消防団員として任命された。地域の教育機関と連携することで、若者の地域参加を促すこと、防災意識を高めること、地域コ

コミュニティの活性化につなげること等が期待されていた。

表 1 周南市学生消防団活動認証制度（条件）

- |   |
|---|
| (1) 周南市内の学校に在学中<br>(2) 18歳以上（※高校生を除く）<br>(3) 現住所が周南市内 |
|---|

展開された消防団活動は、火災予防の広報や救命講習、消防訓練などが主であった。これは全国的にもよく行われている活動内容である。



写真 1 イベントに参加する学生消防団員

その後に発生した新型コロナウイルス感染症の影響により一時的に団員数が減少し、2025年3月時点では学生消防団員は周南公立大学学生1名となっていた。そこで、周南公立大学、徳山工業高等専門学校、周南市の三者連携に基づき新たな学生消防団を創設することとなった。

以降、再び学生の参加が拡大しており、地域防災体制の持続可能性を支える重要な取り組みとなってきた。

## 新しい学生消防団の特徴

このような背景から、周南市と周南公立大学・徳山高専の各担当者が話し合いを重ね、2025年7月に新たな周南市学生消防団が創設された。新しい学生消防団は、周南公立大学から入団した16名、徳山高専から入団した8名に元々入団していた1名を合わせた25名で構成されている。

周南市の学生消防団では、以下の特徴がある。

- |   |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"><li>① 学生消防団の訓練はおおむね1月に1回</li><li>② 活動場所は特別な場合を除き、周南公立大学施設を利用する</li><li>③ 活動日はイベント等への参加を除き平日放課後に実施する</li><li>④ 学生の学んでいる専門性に応じた訓練内容を実施する</li><li>⑤ 周南市の避難所に設定してある周南公立大学の避難所運営についても学ぶ</li><li>⑥ 学生の興味に応じたコース制を採用する（2025年12月現在、未実施）</li></ol> |
|---|

「学生消防団の訓練はおおむね1月に1回」については、同様の実施形態をとっている学生消防団も少なくないと思うが、周南市の旧学生消防団では、イベントへの参加や広報活動が主であり、定期的な訓練の実施はなかった。新たな学生消防団では、イベントへの参加や広報活動に加え、定期的に訓練を行うことで、大規模災害に即応できる知識・技術を得よう企図している。

「活動特別な場合を除き、周南公立大学施設を利用する」というのは、周南市の学校設置状況による。周南市の場合、専門学校を除き、学生消防団の対象者が所属する学校が周南公立大学と徳山高専しかない。合わせて、この2校はおなじ周南市学園台という地域に所在しており、徒歩で行き来が可能な範囲にある。加えて、周南公立大学は周南市の避難所に指定されており、避難所運営を学ぶ場としても大学での実施が望ましいという事情もある。

「活動日はイベント等への参加を除き平日放課後に実施する」は学生の参加率向上のために設定した方針である。一般の消防団であれば土日に訓練日を設定することが多いと思うが、学生の場合、個人によって履修状況が異なった

り、部活動やアルバイトのためむしろ土日の参加が難しいものが少なくないためである。

「学生の学んでいる専門性に応じた訓練内容を実施する」のは、学生が普段学科で学んでいる専門的な知識・技術を生かすことができる実践の場とするためである。本学の場合、例えば看護学科に所属する学生が救命処置法の知識を生かしたり、福祉を学んでいる学生が高齢者や幼児への支援を学んだりするなどを想定している。

「周南市の避難所に設定してある周南公立大学の避難所運営についても学ぶ」については、先にも述べたように周南公立大学は周南市の避難所に設定されている。実際に大規模災害が発生した際に円滑に避難所が運営できるように当該訓練を適宜入れることを想定している。

「学生の興味に応じたコース制を採用する」については、2025年12月現在、まだ学生消防団員は共通の基礎知識を学んでいる状況であるため未実施である。基礎的な知識を学んだあとは、それぞれの興味に従ってコースを選択できるように構想している（図2）。




<p>・ 応急手当普及啓発員コース            応急手当を行うことで命を救える可能性が大幅に向上します。学内で応急手当を指導するスキルの習得ができます。</p>	
<p>・ 防災サポーターコース            防災について学び、避難所運営等、大規模災害時の支援活動ができるようになります。</p>	
<p>・ 消防隊コース            消火活動に必要な研修や各種災害への対応について学び自分を守り、知人も守るスキルを習得します。</p>	

図2 入団前説明会で配られて資料

場所を周南公立大学に決めて訓練を行っている。月に1回の訓練を想定しており、概ね水曜日放課後に1回行う予定となっている。実際には月に1回ないし、2回訓練が行われている状況である。

### これまでの学生消防団活動

今までで行われた活動としては、①辞令交付式および事前の予行練習（7/10-11：周南公立大学）、②しゅうなんFM出演（7/28）、③新入団訓練（9/30：周南公立大学）、④ドローン講習（10/11-12：山口県消防学校）、⑤防災研修（避難所運営ゲーム）（10/29：周南公立大学）、⑥周南市防災訓練（11/16：山口県立新南陽高校）、⑦周南公立大学・徳山高専意見交換会（12/9）があった。

①辞令交付式の予行練習では、まず訓練令式の練習が行われた。訓練礼式は、消防団員の規律を高め、消防活動における確実に迅速な行動を支えるための重要な訓練手法である。この日は特に起立・礼など辞令交付式に必要な礼式を中心に練習が行われた。辞令交付式当日は周南市長、消防団長をはじめ、周南公立大学・徳山高専両校の学長・校長も出席された。



写真2 辞令交付式

②では、地域のコミュニティ放送局であるしゅうなん FM からの出演依頼を受けて、学生消防団の代表者 3 名が 7 月 28 日の放送に出演した。出演した学生消防団員は大学の授業で学んだ救急処置法等の知識を防災に活かしたい、避難所として設定されている周南公立大学で有事の際に貢献したいなどをラジオを通して市民の方々に伝えた。なお、しゅうなん FM は災害時に緊急放送を行うコミュニティ FM でもある。



写真 3 しゅうなん FM 出演時の様子

③新入団訓練では、座学で消防団の服務規程の解説が行われ、訓練礼式を経て、屋外で実際の消防団の資機材に触れてみる時間が設けられた。その様子が写真 4 の通りである。



写真4 屋外訓練の様子

④ドローン講習は初めて周南公立大学以外の場所で実施された。これは、県内の希望者が山口県消防学校に集まり合同で実施される訓練であった。ドローンの夜間飛行の訓練もあるため、2日にわたって実施された。本学からは2名の学生、徳山高専からは2名の学生が参加することとなった。現在、災害時発生時には危険箇所の見回り、被災者の確認などは、ドローンを使うことも多い。今後活躍されることも想定して、ドローン研修を受ける機会が設けられている。



写真5 ドローン研修の様子

⑤防災研修（避難所運営ゲーム）では、周南市の防災アドバイザーを講師にお招きし、避難所運営ゲームを行った。避難所運営ゲームは、静岡県で開発されたゲームで、参加者が避難所の運営に関する知識やスキルを身につけることを目的としている。具体的には、避難者の状況を考慮しながら、限られたリソースを使って避難所を効果的に運営する方法を学ぶ（静岡県ホームページ）。

避難所運営ゲームでは周南公立大学の学生消防団員、徳山高専の学生消防団が所属学校関係なくグループを作り、グループごとに話し合い活動が行われた。話し合い活動の中では、実際に避難所運営する際に、どんなものが必要か、どこにその場所を設置すべきか等について話し合った。各グループで話し合われた内容については、最後に各グループの代表者が発表する形で共有された。各グループで想定されている避難所の様態が異なっており、高齢の方への対応を伴うようなもの、親子連れ赤ちゃん連れの方への対応を伴うものといったように様々な想定されていた学生たちは、活発に話し合い、自分たちなりの結論を導き出していた。多くの意見が交わされたが、それでも不十分であったり、誤った解釈による避難所運営が想定されていた場合は講師である防災アドバイザーの方から場面ごとの望ましい避難所運営についての補足説明がその都度行われた。



写真6 避難所運営ゲームの様子

⑥周南市防災訓練は、市民向けの防災訓練として実施され、学生消防団員はその運営スタッフとして参加した。ヘリによる救助搬送訓練などを伴う大規模

なものであったが、学生らは会場の1ブースであった防災綱引きを担当した。審判や運営を担当したほか、地元小学生らと綱引きを行った。

⑦周南公立大学・徳山高専意見交換会では、年内の活動を振り返るとともに、今後の活動の希望が話し合われた。詳細は後述する。

## 今後の学生消防団活動予定

以上のように、周南市の学生消防団は、専門性を生かすこと、円滑な避難所運営に資することといった新たな意義を付加し、活動を展開している。最後にむすびに代えて、今後の活動予定について概観しておく。

今後の予定であるが、1月は2回活動の予定である。まず1月5日に周南市消防の出初め式（ゼオンアリーナ）に出席、参加することになっている。そこで各分団の消防団員たちとも交流する。また、運営の補助もする予定である。2回目は1月14日に行われる予定である。こちらは消防団の広報動画の作成を行う。前章⑦の話し合いの中で、消防団の広報用動画を作成することが提案された。これは周南公立大学の地域ゼミ（中嶋ゼミ）生から発案があったものである。従前から中嶋ゼミ参加者は地域情報の発信プロジェクトの一環として動画を作成しており、これを消防団広報にも援用しようとするものである。

2月については、災害時の人権教育ないし、その他の消防団訓練が行われる予定であるが、学生消防団所属の学生の長期休みにも当たっており、帰省している者も多くいると予想されるため、オンラインも含めた実施が検討されている。

3月の末ごろには救急処置法の訓練も行なう予定で、看護学科の教員・学生も参加できるような活動が想定されている。

## 引用文献

- ・中嶋克成（2021）「地域消防団員の教育ニーズの調査：KJ法を用いた質的分析」『日本生涯教育学会論集』第4号、13-22.
- ・中嶋克成、藤井靖志、波多野薫、沖村啓治、藤田隆平、佐伯友和、本末諸成、梅月大佑

(2021)「消防団員教育の質保証のための新「消防団大学」構想試案」『日本生涯教育学会論集』第42号、75-83.

- ・静岡県ホームページ「避難所運営ゲーム（HUG）について」<https://www.pref.shizuoka.jp/bosaikinkyu/sonae/earthquake/bosaicenter/1003638/1043919/1030041.html>（2025年12月31日閲覧）.
- ・総務省消防庁ホームページ「学生消防団員の活動」[https://www.fdma.go.jp/relocation/syobodan/activity/student/?utm\\_source=chatgpt.com](https://www.fdma.go.jp/relocation/syobodan/activity/student/?utm_source=chatgpt.com)（2025年12月31日閲覧）.